

## 障害科学学位プログラム（博士前期課程）

Master's Program in Disability Sciences

- 修士（障害科学）
- Master of Arts in Disability Sciences

## 人材養成目的 / Program Educational Objectives

研究者養成の第一段階として、障害科学の科学的・実践的な研究を推進しうる研究基礎力をもった研究者、または科学的な基盤を有し、実践の場での確に能力を発揮できる、国内外のリーダーとなりうる有能な特別支援教育の教員や障害者支援の高度専門職業人を養成する。

<b>養成する人材像</b>	障害科学の基礎的、実践的な知識技能に基づいて、障害の本質の解明、また障害特性の解明を通して支援技術の開発・応用に携わることができる人材。
<b>修了後の進路</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 博士後期課程に進学して、高等教育機関の教員あるいは独立行政法人等における研究者</li> <li>- 特別支援学校や特別支援学級・通級指導教室の高度な専門性を有する教員</li> <li>- 障害のある人を対象とした療育機関や福祉施設の高度な専門性を有する職員</li> </ul>

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士前期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、修士（障害科学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の活用力：高度な知識を社会に役立てる能力	①研究等を通じて知を社会に役立てた（または役立てようとしている）か ②幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	<u>障害科学調査・実験実習 I・II、障害科学研究法 I・II・III、視覚障害学特講 I・II、聴覚障害学特講 I・II、運動障害学特講 I・II、病弱特講 I・II、知的・発達・行動障害学特講 I・II、言語障害学特講 I・II、障害福祉学特講 I・II、障害原理論特講 I・II、理療科教育特講 I・II、修士論文作成など</u> （下線部は必修科目あるいは修了要件）
	2. マネジメント能力：広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	①大きな課題に対して計画的に対応することができるか ②複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	<u>障害科学調査・実験実習 I・II、障害科学研究法 I・II・III、海外特別研修セミナー、修士論文デザイン・中間・最終発表など</u> （下線部は必修科目あるいは修了要件）
	3. コミュニケーション能力：専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	①研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ②研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	<u>障害科学調査・実験実習 I・II、障害科学研究法 I・II・III、視覚障害学演習 I・II・III、聴覚障害学演習 I・II・III、運動障害学演習 I・II・III、病弱演習 I・II・III、知的・発達・行動障害学演習 I・II・III、言語障害学演習 I・II・III、障害福祉学演習 I・II・III、障害原理論演習 I・II・III、理療科教育演習 I・II・III、修士論文デザイン・中間・最終発表、相談活動など</u> （下線部は必修科目あるいは修了要件）
	4. チームワーク力：チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	①チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ②自分の研究以外のプロジェクト等の推進に貢献をしたか	<u>障害科学調査・実験実習 I、障害科学フィールドワーク I・II、特別支援学校教育実習、視覚障害学演習 I・II、聴覚障害学演習 I・II、運動障害学演習 I・II、病弱演習 I・II、知的・発達・行動障害学演習 I・II、言語障害学演習 I・II、障害福祉学演習 I・II、障害原理論演習 I・II、理療科教育演習 I・II、TA 経験、相談活動など</u> （下線部は必修科目）

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	5. 国際性：国際社会に貢献する意識	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ②国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、海外特別研修セミナー、Special Lecture on Disability Sciences、国外での活動経験、留学生との交流など（下線部は必修科目）
	6. 研究計画実行力：障害科学に関する研究を計画実行する基礎的な知識・能力	①障害科学に関する知識に基づき、重要な課題に対して研究計画を立案することができるか ②立案した研究計画について発表を行い、適切に修正し、研究を実行することができるか	障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ、障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害科学講究、視覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、聴覚障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、運動障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、病弱演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、知的・発達・行動障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、言語障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害福祉学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害原理論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、理療科教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、修士論文作成、修士論文デザイン・中間・最終発表など（下線部は必修科目あるいは修了要件）
	7. 障害に関する理解力：障害科学に関する幅広い知識をもち、それを活用する能力	①障害科学に関する知識や技術および現状や課題について理解し、説明することができるか ②専門的知識に基づいた障害科学に関する研究課題を見出し、解決を図ることができるか	障害科学調査・実験実習Ⅰ、視覚障害学特講Ⅰ・Ⅱ、聴覚障害学特講Ⅰ・Ⅱ、運動障害学特講Ⅰ・Ⅱ、病弱特講Ⅰ・Ⅱ、知的・発達・行動障害学特講Ⅰ・Ⅱ、言語障害学特講Ⅰ・Ⅱ、障害福祉学特講Ⅰ・Ⅱ、障害原理論特講Ⅰ・Ⅱ、理療科教育特講Ⅰ・Ⅱ、修士論文作成、修士論文デザイン・中間・最終発表など（下線部は必修科目あるいは修了要件）
	8. 倫理に関する理解と態度：障害の理解及びそれに伴う困難の解消に向けた研究実践に必要な倫理手続きを行う能力	①障害科学に関する倫理講習を受講し、終了しているか ②障害科学に関する研究に必要な倫理観と倫理的知識を理解し、研究を実施することができるか	障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ、障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、障害科学講究、視覚障害学演習Ⅲ、聴覚障害学演習Ⅲ、運動障害学演習Ⅲ、病弱演習Ⅲ、知的・発達・行動障害学演習Ⅲ、言語障害学演習Ⅲ、障害福祉学演習Ⅲ、障害原理論演習Ⅲ、理療科教育演習、修士論文の作成、修士論文デザイン・中間・最終発表など（下線部は必修科目）

<p><b>学修成果の 評価に関する 方針</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 学修成果の集大成としての修士論文を重視し、修士論文の作成および修士論文デザイン・中間・最終発表会（「障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」）を通じて、学位授与の方針に基づく学修成果の到達度を総合的に評価する。修士論文の評価は、論文指導教員（委員長、主査）、副指導教員2名（委員、副査）の計3名から構成される論文審査委員会において、審査、評価を行う。</li> <li>- 学位論文に係る評価の基準、ならびに学位授与に掲げる知識・技能（コンピテンス）のうち、障害に関する高度な知識を有し、研究を通じた知見を社会に役立てる力を有しているか（「知の活用力」）、複数の視点から問題を捉え、広い視野と計画性をもって、障害に関わる諸課題の問題解決能力を有しているか（「マネジメント能力」）、自身の研究内容や専門知識を的確かつ分かり易く伝える能力を有しているか（「コミュニケーション能力」）、課題解決や研究実施において関係者と協働的に取り組む能力を有しているか（「チームワーク力」）、国際社会に貢献する意識、国際的な情報収集や国際的成果を発信するための行動に必要な語学力を有しているか（「国際性」）、障害科学の重要課題に関する研究計画の立案およびその研究実行力を有しているか（「研究計画実行力」）、障害科学に関する幅広い知識から研究課題を見出し説明する能力を有しているか（「障害に関する理解力」）、障害科学に必要な倫理観、倫理的知識に基づいて適切に研究を実施できる能力を有しているか（「倫理に関する理解と態度」）、等の観点から評価する。</li> </ul>
<p><b>学位論文に 関する評価 の基準</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 修士論文の指導においては、指導教員の指導による構想を経て、論文指導教員1名（委員長）、副指導教員2名（委員）の計3名で構成される研究指導委員会が指導にあたる。提出された論文に対しては、主査1名、副査2名の計3名による学位論文審査委員会において、審査、評価を行う。</li> <li>- 修士論文の評価は、提出された論文の査読と最終発表会における発表内容及び最終試験の結果により、以下の観点から総合的に行う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関連分野の国内外の研究動向及び研究の把握に基づいて、障害科学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。</li> <li>2. 障害科学分野の発展に寄与するオリジナルな研究成果が、修士論文に相応しい量含まれていること。</li> <li>3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。</li> <li>4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。</li> <li>5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、当該分野の修士論文に相応しい形式にまとめていること。</li> </ol> </li> </ul>

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

障害科学学位プログラム（博士前期課程）においては、障害科学の基礎的、実践的な知識技能を身に付けるとともに、障害の本質や障害特性を探究し解明する力を培い、研究基礎力を身に付ける。また、この研究基礎力を基盤に、支援技術の開発・応用に携わる力を身に付ける。その際、中心的な専門領域における研究力・専門知識・倫理観とともに、関連する分野の基礎的素養や広い視野、社会の多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を養うための教育・研究指導を行う。

<p><b>教育課程の編成方針</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 基礎科目は、障害科学の基盤となる中核科目群であり、3つの進路（例：研究者、教員、福祉職員）につながる障害科学の研究基礎能力を身に付ける。専門科目（共通）は、障害や障害の特性に関する理解力と障害に関わる教育・福祉の理念・制度・支援方法に関する理解力等の高度専門職業人として必要な知識技能を身に付ける科目群として設定する。専門科目は、理念・制度・障害特性から生じる個のニーズ等の様々な視点のうち、3つの進路に即して、学生の修学の必要性や興味関心に応じながら、特定の専門領域の知識技能を深く身に付ける科目群として設定する。</li> <li>- 障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱにより、研究計画実行力と倫理に関する理解と態度を身に付ける。</li> <li>- 障害科学研究法等その他の基礎科目により、研究計画実行力に加え、研究・実践の橋渡し力を身に付ける。</li> <li>- 専門科目（共通）の科目群により、障害に関する理解力およびサービスの開発実行力を身に付ける。</li> <li>- 専門科目群のうち、特講科目によって、各障害専門領域あるいは理念・制度等の障害横断領域ごとの研究計画実行力、障害に関する理解力を身に付ける。</li> <li>- 専門科目群のうち、演習科目によって、各障害専門領域あるいは理念・制度等の障害横断領域ごとのサービスの開発実行力、研究・実践の橋渡し力、倫理に関する理解と態度を身に付ける。</li> </ul>
<p><b>学修の方法 特色的な教育</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 基礎科目の必修科目から5単位、専門科目における専門領域の科目（学生が特に専門に修学する領域で原則として論文指導教員が担当する特講Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の7単位、その他の科目（大学院共通科目、基礎科目の選択科目、専門科目（共通）、専門科目における専門領域の科目以外の特講Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ）から18単位以上を修得し、合計で30単位以上を修得することとする。</li> <li>- 修士論文作成に係る研究指導は、1年次基礎科目「障害科学調査・実験実習Ⅰ・Ⅱ」（必修）、1・2年次基礎科目「障害科学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（必修）、ならびに、2年次専門科目「演習Ⅲ」（選択必修）で、組織的・体系的に行う。</li> <li>- 障害科学の研究者を目指す学生は、研究者養成の第一段階として、基礎科目による研究基礎力の修得と専門科目による障害専門領域・横断領域ごとの専門的知識技能の修得に重点を置いた履修とする。</li> <li>- 特別支援学校や特別支援学級の教員を目指す学生は特別支援教育分野の高度専門職業人として、基礎科目による研究基礎力の修得と専門科目（共通）群から特別支援教育に関する理念・制度、障害のある児童生徒の生理・心理・教育課程・指導法等に関する科目の履修による知識技能の修得に重点を置いた履修とする。</li> </ul>

<b>学修の方法 特色的な教育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 障害のある人を対象とした療育機関や福祉施設の職員を目指す学生は、障害者支援分野の高度専門職業人として、基礎科目による研究基礎力の修得と専門科目（共通）群から障害発達臨床・支援等に関する科目の履修による知識技能の修得に重点を置いた履修とする。</li> </ul>
-------------------------	--

**入学者受入れの方針 / Admission Policy**

<b>求める人材</b>	<p>障害に関わる、生涯の教育・福祉的支援、行政、国際協力等への貢献を志す人材で、研究者や高度専門職として、この分野での活躍に意欲のある人材を求める。学部段階で障害科学の基礎を学習した者、または障害科学以外の専門分野の出身で、障害科学を専門的に学ぼうとする者、教員・社会人、医療系の資格を有する者、外国人留学生等を幅広く受け入れる。</p>
<b>入学者選抜方針</b>	<p>一般、推薦、社会人特別選抜（現職教員1年制プログラムを含む）の3種類の入学試験を実施する。また長期履修制度による課程修了も可能とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 一般入試および推薦入試では、英語能力検定試験のスコアによる評価、障害科学に関する専門知識等の評価、研究計画の着想に至る論理性や準備状況等の評価を行う。</li> <li>- 社会人特別選抜では、英語能力検定試験を免除し、出願時書類の審査、障害科学に関する専門知識等の評価、研究計画の着想に至る論理性や準備状況等の評価による特別選抜を実施する。</li> </ul>

**学修支援体制 / Learning Support Framework**

<b>学修支援</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 修士論文デザイン、中間発表、最終発表会と3回の研究発表会では、主指導教員や副指導教員の研究指導、学生同士のピアレビューを通して、研究プレゼンテーション指導が行われている。</li> <li>- 一部の講義科目では、オンデマンド講義動画の効果的な活用により、講義内容の理解度を高め、効果的に学修できるようにしている。</li> <li>- 情報収集能力、分析能力、論理的思考力等の学習スキルやライティングスキルの支援については、障害科学調査・実験実習、各障害学演習、障害科学研究法等の受講により、研究課題に関する情報収集、先行研究やデータの分析、論理的文章の作成と推敲を通して、様々な専門性を有する複数の教員からの支援が行われている。</li> <li>- 効果的な学修に向けて、毎年度末に TWINS のコンピテンス修得状況を確認し、学生自身の達成度評価を自己点検する機会を設定している。</li> <li>- 英文学術雑誌への掲載料・校閲費の一部を独自に助成し、大学院生の国際的な研究発信を支援している。</li> </ul>
-------------	---

<p>学生同士の 交流機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 国際交流では、定期的に CiC パートナー校や部局間協定を締結しているアジア並びに北米大学との共同で学生が交流できる機会を設け、国際性の意識向上や国際的研究活動の意欲を高めている。</li> <li>- 学生同士のグループワークを通じたプレゼンテーション、レポート作成の課題を含む基礎科目、専門科目が複数あり、学生同士で講義内外で交流を深めながら学修効果を高めている。</li> <li>- 年度末に前期課程・後期課程合同の学生懇談会を実施し、学位論文作成や就職活動、その他学生生活に関する情報交換の機会を設けている。</li> <li>- 後期課程修了者の講話と交流を含む内部進学希望者向けの説明会「『障害科学』と歩む自分らしいキャリア」を開催し、上級生や修了生との交流機会を作り、学位取得後の活躍のあり方について考える機会を設けている。</li> <li>- 大学院共通科目で本プログラムが開設（BHE 企画）している科目では、多様な専門性を有する大学院生がチームを組み、新事業を提案する試みがあり、社会課題の解決や学修意欲を高める交流ができています。</li> </ul>
<p>教員との交流機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 修士論文指導体制では、原則主指導教員 1 名と副指導教員 2 名による研究指導が行われており、多様な専門性を有する教員との交流機会がある。</li> <li>- 教員主催の合同研究会や研究プロジェクトへの参加を通じた交流から、研究意欲を高める機会となっている。</li> <li>- Teams や manaba の活用により、講義内でのレポートまたはテストに対する学生へのフィードバック、研究指導の進捗状況の確認やフィードバックを行っている。</li> <li>- 適宜個別に指導状況等についての面談を行い、論文指導教員ならびに副指導教員とも連携を取り、学位授与に向けた指導を行なっている。</li> <li>- 社会で活躍する修了生との交流会を通して、進路相談や研究キャリアの相談機会を設けている。</li> <li>- Microsoft Forms を用いて、コンピテンス修得状況の自己評価やカリキュラムに関する意見等に対する学生へのフィードバックは、新年度のオリエンテーションでの周知、適宜担任・指導教員から学生に個別のフィードバックを行っている。</li> <li>- 年度末に学位プログラム独自の学生アンケートならびに学生懇談会を実施し、プログラムの教育・研究指導に対する意見交換を行っている。</li> <li>- 修了時に修了生全員に、修了後も実際に使用するアクティブなメールアドレスの提供を求める形で、同窓会ネットワークを構築している。</li> </ul>

### 教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 障害科学学位プログラムの構成員全員が参加する教育会議にて、在学生のコンピテンス自己評価アンケートの結果報告、修士論文発表会の評価を教員全体に周知し、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証する。
- 社会で活躍する修了生に本学位プログラムの外部評価委員を依頼し、修了生から学位プログラムの教育研究指導改善に関するコメントをもらい、ディスカッションを行っている。外部からのフィードバックを参考に、教育の質保証と改善の方向性を検討する。
- 年度末に学位プログラム独自の学生アンケートならびに学生懇談会を実施し、プログラムの教育・研究指導に対する意見交換を行い、教育活動の点検と次年度以降の教育改善に向けた取り組みを検討する。